佐賀市②山あいの景観、グルメ満喫　三瀬温泉「やまびこの湯」、名尾手すき和紙、「道の駅」大和そよかぜ館

佐賀市

和紙工房でうちわ作り

佐賀市は広い。行ったことのない場所がまだまだあると、改めて実感したローカルの旅だった。北の方へ足を伸ばし、山間部でのんびりした時間を過ごしてみた。（佐賀市政担当　草野杏実）

まず向かったのは、肥前名尾和紙の伝統を受け継ぐ大和町名尾の工房「名尾手すき和紙」。佐賀駅バスセンターからバスに乗って停留所「尼寺（にいじ）」で降りた。そこから土日祝日は観光客も利用できる同町松梅地区のデマンドタクシーに乗り換え、到着した。



歴史ある名尾和紙を唯一継承する「名尾手すき和紙」＝佐賀市大和町名尾

工房では、好きな和紙を選んで白いうちわに飾る「オリジナルうちわ作り」に挑戦した。デザインを考えながら水色とピンクの和紙をちぎり、のりでぺたぺたと貼る。４０分ほどで、丸くちぎった和紙が印象的なうちわができあがった。

久々のものづくりで楽しかった。１枚ごとに厚みや色の濃淡が違い、和紙に触れてみて新たな発見につながった。重ねて貼る方法もありそうだ。工作が好きな子どもや、自分だけの作品を作りたい人に特にお勧めしたい。

名尾手すき和紙



ちぎった和紙をのりで貼って作ったオリジナルのうちわ

うちわ、パネル作り（１５００円）は１人から体験できる。紙すき体験は１０人以上から受け付け、１人２０００円。要予約。直営店は午前９時から午後５時まで。電話０９５２（６３）０３３４。

三瀬温泉「やまびこの湯」



三瀬温泉「やまびこの湯」の招福の湯にある露天風呂＝佐賀市三瀬村（提供写真）

午前１０時～午後９時（最終受付は午後８時２０分）。入館料は中学生以上５５０円、小学生以下３００円、３歳以下は無料。佐賀市民は午後５時から、中学生以上３５０円、７０歳以上と小学生以下は２５０円となる。家族風呂は１時間１５００円（別途入館料が必要）で、予約もできる。定休日は毎月第２水曜。問い合わせは、電話０９５２（５６）２２２３。

続いて、三瀬村の三瀬温泉「やまびこの湯」を訪ねた。浴場は「せせらぎ」と「ひだまり」があり、男湯と女湯が１日おきに代わる。お湯はアルカリ性で、浸かると肌がつるつるに。ガラス張りになっていて内湯からも山あいの景色が望め、２月ごろは雪景色が見られるという。ひだまりのサウナには昨年１２月、熱した石に水をかけて蒸気を発生させるセルフロウリュウ式が取り入れられた。

最後は大和町の「道の駅」大和そよかぜ館に立ち寄った。地元の特産品を多く扱っていて、特に松梅地区の干し柿を使った柿酢（８６４円）や優しい甘さのほし柿ソフトクリーム（４００円）が人気。たけのこまん（一個３５０円）はこぶしほどの大きさで、餡（あん）のたけのこがしゃきしゃきしておいしい。オートキャンプ場も併設している。

山間部は冬は市街地より冷え込むものの、まったりとしていて楽しく、けっこう温かく過ごせる。ぜひ行ってみては。

「道の駅」大和そよかぜ館



松梅地区の干し柿を使ったソフトクリーム＝佐賀市大和町の道の駅そよかぜ館

午前９時～午後６時。定休日は１月１～３日。駐車場は２４時間利用でき、大型車も停められる。オートキャンプ場は日帰り１０３０円、宿泊利用２０６０円（電気使用料は別途必要）。問い合わせは、電話０９５２（６４）２２９６。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！

武雄市

武雄市　周遊バスで名所めぐり
武雄温泉新館・楼門、武雄温泉物産館、飛龍窯

楼門、飛龍窯、大楠…

西九州新幹線の開業を機に、武雄市内の観光スポットを周遊するバス「たけめぐり」が誕生した。武雄温泉駅から約１時間半かけて、各地を訪ねる。３月２６日まで、日曜と祝日の１日４便の限定運行となる。乗車料金は１回２００円（小学生、障害者は１００円）。

武雄温泉駅南口のバス乗り場から、丸目のライトが特徴的で愛きょうのあるバス「たけめぐり」に乗り込んだ。定員２５人で、窓が大きくて車窓からの景色も楽しめる。武雄温泉物産館－飛龍窯（武内町）－川古の大楠（若木町）－同駅北口－武雄市役所－武雄市図書館・歴史資料館－武雄温泉楼門を巡り、同駅南口に戻ってくる。



武雄温泉南口から出発する観光周遊バス「たけめぐり」＝武雄市武雄町昭和

武雄温泉物産館は、お土産品や手作りのスイーツなどの人気が高い。「一押し」は武雄産の大豆商品。高オレイン酸の健康食品としても浸透し、箱ごと購入する買い物客もいる。

次に停車するのは飛龍窯。世界一の大きさを誇る登り窯で、工房では陶芸体験もできる。バスは近くの川古の大楠まで行って再び飛龍窯まで戻るため、この間の約４０分でろくろを回す体験などができる。

出発から約１時間２０分で駅北口に到着するので、下車して別の目的地を目指すこともできる。そのままバスを利用すると、市役所や市図書館・歴史資料館に向かう。市役所は日曜・祝日も１階ホールや３階テラスなどを開放していて、休憩所としても利用できる。

最後の停車ポイントは武雄温泉のシンボル「楼門」。国の重要文化財で、朱色の柱に白壁が美しく、撮影スポットとしても人気が高い。同じく国重要文化財の武雄温泉新館も自由に見学できる。

市観光協会の川浪愛さんは「運転しなくても各スポットまで気軽に行けるので、ぜひ利用してほしい」と呼びかけている。市商工観光課は、４月以降もダイヤやルートを見直して周遊バスの運行を継続する方針を示している。

武雄温泉新館・楼門



武雄温泉新館（右）と楼門（左）＝武雄市武雄町

唐津市出身で日本銀行本店、東京駅を設計した建築家辰野金吾が手がけた。楼門２階の天井にある干支（えと）の見学会は火曜を除く午前９～１０時、見学料４５０円。温泉新館の見学は無料で、午前９時から午後６時まで。大衆浴場は元湯、蓬莱湯、鷺乃湯があり、大人４５０円から。電話０９５４（２３）２００１。

武雄温泉物産館



武雄温泉物産館で販売している武雄市産で高オレイン産の大豆を使った商品

武雄市では佐賀大が開発した大豆「佐大ＨＯ１号」を積極的に生産し、市内の食品会社が商品開発に取り組んでいる。武雄温泉物産館の人気商品は白大豆グラッセ（１５０円、光武製菓）、大豆ブレンドコーヒー（７００円、ＣｏｆｆｅｅＳｈｏｐ喜蔵）、からだにうれしい米みそ（８１０円、角味噌醤油）など。電話０９５４（２２）４５９７。

飛龍窯



世界一の容積を誇る飛龍窯の登り窯＝武雄市武内町

武雄の焼き物発祥の地に造られた全長２３メートル、高さ３・４メートルの登り窯。１度に１２万個の湯飲みを焼成できる世界一の容積を誇る。工房で陶芸体験ができ、ろくろ体験（約１５分）は１６００円、ひも状に伸ばした土を輪状に積み上げる手びねり体験（約４５分）は１４００円など。午前９時～午後５時。火曜と年末年始は休み。電話０９５４（２７）３３８３。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！

伊万里市・有田町 焼き物鑑賞、散策、リーズナブルに 佐賀県立九州陶磁文化館、里小路の矢竹生垣通り、伊万里・鍋島ギャラリー

伊万里市・有田町

ワンマン列車で沿線探訪

伊万里市と有田町には、北松浦半島の海沿いを通って長崎県の佐世保市とつながる松浦鉄道（ＭＲ）がある。ススキが風に揺れるころ、各駅停車のワンマン列車に乗って、沿線の歴史と文化、自然に触れる旅に出た。



有田川沿いの金武駅に停車する松浦鉄道の車両＝伊万里市二里町

有田町の有田駅から徒歩で１０～１５分。佐賀県立九州陶磁文化館では、有田焼４００年の歴史を作品や映像を見ながら学ぶことができる。昨年、常設展を全面リニューアル。欧州の豪華な宮殿を模した古伊万里の部屋や、映像で文様を絵付けしていく皿形のスクリーンなど、焼き物に詳しくなくても楽しめる工夫が随所にある。常設展は観覧無料。



九州陶磁文化館の常設展＝有田町

ミュージアムショップも見逃せない。有田焼のマグネットやカード立て、クリアファイルなど品ぞろえが充実していて、お土産にしても喜ばれそう。

列車で伊万里駅方面に向かう途中、天気が良いので金武駅（伊万里市二里町）で降りることにした。駅のそばを有田川が流れ、川沿いの散策を楽しめる。自然が程よく残った河川敷の小道を歩いていると、並行して線路があるＭＲの車両が隣をガタゴトと通過する。何もかもがゆったりとして、心身ともにほぐれていく。

伊万里駅では再び焼き物を鑑賞した。駅ビルの２階に市営の伊万里・鍋島ギャラリーがあり、江戸時代に大川内山の藩窯で作られた鍋島焼などの名品を見ることができる。昨年７月から３００円だった入館料が無料になっている。

伊万里駅から今度は佐世保駅方面の列車に乗り、二つ先の里駅（伊万里市東山代町）で下車。山の方に少し歩くと、住宅地に矢竹の生け垣が５００メートルにわたり続いている。戦国末期の武家の居住区の名残で、歴史的な景観が住民の努力で４００年以上も守り継がれていることに感動を覚える。

今回使ったお金は列車の運賃と九州陶磁文化館で買った柿右衛門様式の皿のマグネット（１個７００円）のみ。財布に余裕ができたので、食事でちょっと贅沢（ぜいたく）をした。

佐賀県立九州陶磁文化館



九州陶磁文化館のグッズ＝有田町

２０２２年４月、常設展示室を１９８０年の開館以来初めてリニューアルし、有田焼の歴史をさらに詳しく紹介している。月曜休館（月曜が休日の場合は次の平日）。電話０９５５（４３）３６８１。

里小路の矢竹生垣通り



佐賀県遺産の「里小路の矢竹生垣通り」＝伊万里市東山代町里地区

伊万里市東山代町里地区にある。戦国末期、この地を治めた田尻氏が家臣たちの居住区を造り、戦に備えて生け垣に矢の材料となる矢竹を植えたと伝えられる。２０１９年に「２２世紀に残す佐賀県遺産」に認定された。

伊万里・鍋島ギャラリー



伊万里焼、古伊万里の逸品を展示している伊万里・鍋島ギャラリー＝伊万里市新天町

大正ロマンを感じさせるゴシック風建築で、２０１０年にオープン。大浴場や貸し切り湯がある。料金は中学生以上４２０円、小学生２１０円（未就学児無料）、７０歳以上３２０円。午前６時～午後１０時、休館日は毎月第３水曜。近くには９０分間無料の市営駐車場がある。嬉野市嬉野町大字下宿乙８１８の２。電話０９５４（４３）１４２６。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！

佐賀県旅ガイド＞小城・多久市　歴史と自然の散歩道　西渓公園と多久聖廟、小城公園をぶらり

小城・多久市

西渓公園と小城公園をぶらり

佐賀県の中央に位置する多久市と小城市。両市を代表する西渓公園と小城公園は、歴史と自然が織りなす散歩道を満喫できる。



日差しを浴びて一段と映える桜＝３月２６日、小城市の小城公園

ＪＲ唐津線の多久駅から、昭和バスの多久武雄線のジャンボタクシーに乗り込んだ。多久市立病院前の停留所「本多久」で降り、７００メートルほど歩いて向かったのは「西渓（せいけい）公園」。多久出身で「肥前の炭鉱王」と呼ばれた高取伊好（これよし）（１８５０～１９２７年）が整備した公園で、入り口で正面に立つ高取の像が迎えてくれる。木造公会堂「寒鶯（かんおう）亭」など大正レトロに浸りながら回遊式の日本庭園を一周すると、なんだか心が安らぐよう。そんな思いでシャッターを切った。

炭鉱は長く多久の主要産業だったが、１９７２（昭和４７）年１１月に佐賀県内最後の炭鉱の新明治佐賀・西杵炭鉱会社が閉山した。それからちょうど半世紀。公園内にある「多久市郷土資料館」では、１月２０日から企画展「あの頃、多久に炭鉱があった～炭鉱閉山５０年～」が開かれる。

西渓公園から約８００メートル歩くと、まちのシンボルで儒教の祖・孔子を祭る「多久聖廟（せいびょう）」がある。訪れるたびに人としての心のありようを孔子に説かれているようで、背筋がピンと伸びるから不思議だ。

多久駅に戻って次は小城駅で降り、歩いてすぐ小城公園に到着した。県内には花見スポットがいくつもあるが、小城公園は桜の名所１００選に選ばれていて、春には３千本の桜が咲き誇る。ツツジやフジなど四季折々の花も楽しめ、自然を感じながら散策できる名園だ。

お土産に欠かせないのは「小城羊羹（ようかん）」。二十数軒の羊羹店が軒を連ねており、街中を歩いてお気に入りの味の羊羹を買い求めた。「村岡総本舗羊羹資料館」まで足を延ばせば、小城羊羹の歴史や長崎街道シュガーロードにも触れることができる。

多久聖廟



国指定重要文化財の多久聖廟。受験シーズンには合格祈願の参拝客が増える

江戸時代の１７０８（宝永５）年に多久領四代領主多久茂文が建てた孔子廟で国指定重要文化財。現存する聖廟としては足利学校（栃木県）、閑谷学校（岡山県）に次いで古く、建物の中には孔子のほか顔子、曽子、子思子、孟子の像が安置されている。４月１８日と１０月の第４日曜に開かれる伝統行事「釈菜（せきさい）」は、異国の荘厳な時代絵巻を堪能できる。多久市多久町１６４２。

小城公園

小城藩初代藩主の鍋島元茂、２代藩主直能によって造られた庭園で、かつては桜岡公園と呼ばれた。１８７５（明治８）年に佐賀県内で初めて明治政府の公園指定を受け、１９５１（昭和２６）年に南側の庭園部分が鍋島家から小城町に寄贈され、現在の名称になった。９０年に桜の名所１００選、２００７年には「日本の歴史公園１００選」に選ばれている。小城市小城町１８５。

西渓公園



自然美と人工美が調和した回遊式庭園を散策しながら、春の桜、秋の紅葉など四季折々の風情を楽しめる。公園内には国登録有形文化財の寒鶯亭（かんおうてい）や市郷土資料館、市歴史民俗資料館があり、多久の歴史や文化を体感できる。多久市多久町１９７５の１。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！

鹿島市・太良町　神社巡りで運気も上昇　祐徳稲荷神社、大魚神社の海中鳥居、電動バイクのレンタル、大成丸海産

鹿島市・太良町

有明海の恵み堪能

寒さが厳しくなって外に出るのもおっくうになりがちだが、鹿島市と太良町の有明海沿岸は海の幸、山の幸が旬を迎え、グルメを堪能できる。ＪＲ長崎線でゆったりと車窓の景色を楽しみながら、心とおなかを満たす旅に出た。

普通列車に揺られ、到着したのは鹿島市の肥前浜駅。昭和を感じさせるレトロな外観で、地酒を楽しめる「ＨＡＭＡＢＡＲ」も併設されている。一杯引っかけたくなるが、ここは我慢して、白壁土蔵の町並みが残る肥前浜宿酒蔵通りを散策した。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていて、酒蔵や醤油（しょうゆ）蔵など古い建物が立ち並ぶ。醸造で栄えた地域の歴史を肌で感じられる。



日本三大稲荷の一つに数えられる祐徳稲荷神社。正月三が日には７０万人の初詣客が訪れる＝鹿島市古枝

肥前浜駅で、電動バイクをレンタルした。目指すのは浜川の上流の祐徳稲荷神社。日本三大稲荷の一つに数えられ、パワースポットとしても知られる。ひんやりとした本殿で参拝すると、凜（りん）とした気分になった。エクササイズがてら、山頂にある「奥の院」まで参拝し、お守りを買った。

次に訪れたのは太良町の大魚神社の海中鳥居。有明海に赤い鳥居が「映える」人気スポットだ。神社を巡って運気が上がったところで、おなかを満たしに行く。

鹿島市から太良町にかけての国道２０７号沿いには十数件のカキ小屋があり、「カキ焼き街道」とも呼ばれる。各店で有明海産のカキを堪能でき、今回は太良町大浦の「大成丸海産」を訪ねた。

小高い場所にある同店では、窓の外に有明海のパノラマが広がる。カキ焼きやウチワエビの刺身などを頼んだ。店主の大島竜司さん（５２）は「ミネラルが豊富な有明海で育つカキは、とにかく味が濃厚」と太鼓判を押す。

絶景と有明海の恵みで、身も心もぽかぽかになった。再び肥前浜駅に戻り、日本酒の飲み比べセットを堪能した。特産のミカンを旅のお土産にした。

祐徳稲荷神社

１６８７年創建で、日本三大稲荷神社の一つに数えられ、絢爛（けんらん）な社殿から鎮西日光とも称される。商売繁盛や家運繁栄などを願い、年間３００万人が訪れる。３０００台の無料駐車場がある。鹿島市古枝乙１８５５。

大魚神社の海中鳥居



大魚神社の海中鳥居。有明海の干満で表情を変える＝太良町

約３００年前に有明海の沖ノ島に置き去りにされた代官が大魚（ナミノウオ）に救われたという伝説に由来する。海中に朱色の鳥居が３基並び、干潮時はくぐることもできる。ＳＮＳ（交流サイト）で注目を集めている。太良町多良１８７４の９地内。

電動バイクのレンタル



レンタルしている電動バイク。気軽にまちを巡ることができる＝鹿島市の肥前浜駅

鹿島市の肥前鹿島駅と肥前浜駅で貸し出している。１時間７５０円（ヘルメット代、保険料含む）。原付免許か普通免許が必要。要予約で、問い合わせは肥前鹿島駅が市観光協会、電話０９５４（６０）５１４５、肥前浜駅はＮＰＯ法人肥前浜宿水とまちなみの会、電話０９５４（６９）８００４。

大成丸海産



冬の有明海の味覚「カキ焼き」を楽しむ家族連れ＝太良町大浦の大成丸海産

１１月から３月末頃までカキ焼き小屋を営業。有明海産のカキ（一盛り１０００円）のほか、ウチワエビやヒオウギガイの刺身なども楽しめる。炭代３００円。太良町大浦丁１８７８の１。電話０９５４（６８）２１７０。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！

神埼市郡　「弥生のクニ」でバーベキュー　吉野ケ里歴史公園、長崎街道　神埼宿

神埼市郡

「弥生のクニ」でバーベキュー

吉野ケ里遺跡で有名な吉野ケ里歴史公園（神埼市郡）。歴史だけでなくレジャー施設としても楽しむことができ、アウトドア人気も相まって週末は多くの家族連れでにぎわう。「弥生のクニ」で手ぶらでバーベキューが楽しめると聞き、電車で行ってみた。



園内ではバーベキューなどレジャーも楽しめる＝吉野ケ里歴史公園（提供写真）

ＪＲ神埼駅（神埼市）で降り、田園地帯を１５分ほど歩くと公園の西口に着いた。向かう場所は野外炊事コーナー。予約すると、肉や野菜、コンロ、炭などバーベキューの食材、道具の一式がそろう。最低５人前からで、人数や量などに応じて４コースが用意されている。

弥生時代にちなんだ「火おこし」体験はなく、炭火もスタッフがおこしてくれる。緑に囲まれた中で、手軽にバーベキューを楽しめる。「後片付け」も不要という心憎いサービスも付く。満腹になった後は、広大な園内でゆっくり散歩を楽しむのもいい。神埼駅から徒歩１０分のところに、昔ながらの街並みを満喫できる「長崎街道神埼宿」がある。街道にある神埼宿場茶屋には、名物の「神埼そうめんコロッケ」が売られている。神埼名物のそうめんとパン粉で包んでいて、カリッとした食感も魅力。「売り上げは１日２００個」との店主の言葉も納得した。（中島野愛　神埼市郡担当）

吉野ケ里歴史公園

吉野ケ里遺跡の保存を目的に、出土品の展示など情報発信の拠点として２００１年に開園した。園内には遊具エリアや芝生広場などもある。弥生時代にちなんだ体験プログラムも充実している。

長崎街道神埼宿



神埼そうめんコロッケ。カレー味やかぼちゃ味なども販売している＝神埼市の神埼宿場茶屋

江戸時代、長崎街道の宿場の神埼には迎賓館「お茶屋」や脇本陣の武家宿、外国使節団の宿舎があったとされ、当時と同じ行程の道が残されている。安産や子育て、縁結びにご利益があるといわれる櫛田宮もある。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！

嬉野市　うれしの茶の魅力も体感　豊玉姫神社、うれしの茶交流館「チャオシル」、シーボルトの湯

嬉野市

湯の街、寄り道楽しく

西九州新幹線の嬉野温泉駅が昨年９月に開業し、約９０年ぶりに鉄路がつながった嬉野市。佐賀方面からは武雄温泉駅で乗り換えると次の駅、わずか５分ほどの乗車時間だが、せっかくの機会なので新車両「かもめ」の乗り心地を確かめながら手軽な旅を始めた。

真新しい嬉野温泉駅に着いて西口を出ると、市の観光交流施設「まるくアイズ」が目に入った。まち歩きの観光マップのほか、うれしの茶や肥前吉田焼など特産品の紹介もあり、まずは観光情報を収集した。インターネット上の仮想空間「メタバース」で駅前を再現した「デジタルモール嬉野」では、体験を通して最先端の技術に触れた。



豊玉姫神社では、嬉野温泉の源泉かけ流しの手水舎がある。なまず様も鎮座する＝嬉野市嬉野町

駅から温泉街まで約１・２キロ。バスを降り、ぶらぶらと湯の街を歩いた。本通りから路地裏に入れば古い建物や入り組んだ道が残り、土地の生活が感じられるのも魅力の一つだ。まずは「豊玉姫神社」を訪ねた。境内には"美肌の神様"で知られる白色の「なまず様」が鎮座し、手水舎（てみずしゃ）はなんと源泉かけ流し。すべすべになった手を合わせ、早速ご利益を実感した。

温泉尽くしの旅で、昼食はとろとろの温泉湯豆腐を堪能した。おなかの中から体が温まったところで、うれしの茶交流館「チャオシル」まで足を延ばした。

品評会で何度も日本一に輝いているうれしの茶。事前予約が必要だが、釜炒（い）り体験（千円）や、茶の収穫シーズンには茶摘み体験（６００円）もできる。おいしいお茶を家でも楽しめるよう、茶の入れ方教室（３００円）で基本をしっかり学んでから一服し、茶畑を眺めながら温泉街に戻った。

スポットを巡るだけでも、結構運動になる。歩き疲れた足は湯宿広場にある無料の足湯でもほぐせるが、近くの公衆浴場「シーボルトの湯」へ行ってゆっくりと温泉に浸かった。心身共にリフレッシュして帰路についた。（鹿島・嬉野支局　山口源貴）

豊玉姫神社

美しい肌の女神である豊玉姫大神をまつり、美肌を祈願して多くの参拝客が訪れる。境内には、豊玉姫の使いとされる磁器製の白なまずをまつったなまず舎もある。嬉野市嬉野町大字下宿乙２２３１の２。

うれしの茶交流館「チャオシル」



「チャオシル」では、おいしいお茶の入れ方を学べる教室もある

茶の栽培や製茶の過程を学ぶことができ、茶摘みやお茶の入れ方教室などの体験も充実している。喫茶コーナーもある。ＪＲバス大野原口バス停下車。嬉野市嬉野町大字岩屋川内乙２７０７の１。体験予約は、電話０９５４（４３）１９９１。

シーボルトの湯



三角屋根が目印の公衆浴場「シーボルトの湯」＝嬉野市嬉野町

大正ロマンを感じさせるゴシック風建築で、２０１０年にオープン。大浴場や貸し切り湯がある。料金は中学生以上４２０円、小学生２１０円（未就学児無料）、７０歳以上３２０円。午前６時～午後１０時、休館日は毎月第３水曜。近くには９０分間無料の市営駐車場がある。嬉野市嬉野町大字下宿乙８１８の２。電話０９５４（４３）１４２６。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！

バスに揺られて玄海町　遊びと学び、親子でいかが　浜野浦の棚田、玄海エネルギーパーク、玄海町次世代エネルギーパーク「あすぴあ」

玄海町

バスに揺られて玄海町

昨年１２月上旬の土曜日。唐津市の大手口バスセンターでバスに乗った。目的地は玄海町の玄海エネルギーパーク。普段の取材は車で行ってばかりなので、仕事を忘れてゆったりとした気持ちで窓越しの海や山の景色を眺めた。所要時間は約４０分。パーク前の停留所に到着した。



実物大の原子炉模型で映像を流し、原発の仕組みを紹介するコーナー＝玄海町の玄海エネルギーパーク

「子どもたちに人気なんですよ」。館内で、中村浩史館長からスタンプラリーを勧められた。年齢的に気恥ずかしさも覚えつつ、用紙を手に各階を回った。

館内中央には、実物大の原子炉の模型がそびえ立つ。原子力発電の仕組みをクイズやゲーム形式で学ぶコーナーや地震体験のコーナーは子どもでも楽しめる。最上階の展望ルームは、玄界灘や離島、玄海原子力発電所の全景が目の前に広がる。

唐津市出身で、子どもの頃からパークには何度も訪れたことがあるが、発電所の温排水を利用した観賞用温室には初めて足を踏み入れた。熱帯植物からかわいらしい花までそろい、知識がなくても十分楽しめる。四季を通じて快適な空間になっているという。

パークの敷地内の公園では、多くの親子連れが遊具で遊ぶ姿が見られた。隣接する玄海町次世代エネルギーパーク「あすぴあ」にも足を運んだ。牛のふんからできた燃料で電気をつくる流れを学ぶボールコースターのコーナーで、子どもたちが興味深そうにボールを追いかけていた。屋内で楽しみながらエネルギーについて学び、外遊びも目いっぱい満喫できる。親子の日帰り旅にぴったりの施設と感じた。

バスに乗って次に向かったのは「浜野浦の棚田」。時間や天候、季節によってさまざまな景色を見せ、いつ訪れても風情がある。２月まで夜間にライトアップも行われている。

パークの敷地内の公園では、多くの親子連れが遊具で遊ぶ姿が見られた。隣接する玄海町次世代エネルギーパーク「あすぴあ」にも足を運んだ。牛のふんからできた燃料で電気をつくる流れを学ぶボールコースターのコーナーで、子どもたちが興味深そうにボールを追いかけていた。屋内で楽しみながらエネルギーについて学び、外遊びも目いっぱい満喫できる。親子の日帰り旅にぴったりの施設と感じた。

バスに乗って次に向かったのは「浜野浦の棚田」。時間や天候、季節によってさまざまな景色を見せ、いつ訪れても風情がある。２月まで夜間にライトアップも行われている。

鎮西町、呼子町を経由し、大手口に戻ってきた頃には日が沈んでいた。バスに体を預けて玄海町や唐津市の風景を眺める。遠回りかもしれないけれど、心地よかった。

玄海町次世代エネルギーパーク「あすぴあ」



牛のふんをボールに見立て、バイオマス発電の仕組みを学ぶコーナー＝玄海町の次世代エネルギーパーク「あすぴあ」

午前９時～午後５時。入館無料。有料プログラムとして、燃料電池と太陽電池を載せた電動カートの乗車や「ぬりえスタンプラリー」などがある。玄海町今村４５６０の１。電話０９５５（５１）３０８０。

玄海エネルギーパーク

午前９時～午後５時、入場無料。毎月第３月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（１２月２９日～１月２日）は定休。１月３日は先着１５０人にお菓子詰め合わせをプレゼントする。玄海町今村浅湖４１１２の１。電話０９５５（５２）６４０９。

浜野浦の棚田



観光名所の「浜野浦の棚田」。夕焼け空が水を張った棚田に映し出される＝昨年５月１日、玄海町

「日本の棚田百選」や「恋人の聖地」に認定されている。約２８０枚の田んぼが海岸から駆け上がる階段のように幾重にも連なる。玄海町の観光名所の一つで、水を張った春のゴールデンウイークには大勢の観光客でにぎわう。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！

唐津市　列車に揺られ自然満喫　肌つるつる佐用姫の湯　JR厳木駅の給水塔ライトアップ、王天家窯、あづま寿し

唐津市

肌がつるつる佐用姫の湯

山あいの景色が広がる唐津市の厳木・相知方面。歴史ある景観や焼き物、温泉など多彩な魅力がある。列車に揺られながら、夜の旅を味わった。

ＪＲ唐津駅で、人気ゲーム「サガ」のキャラクターが車体にあしらわれたラッピング列車に乗り込んで出発。厳木駅に到着すると、レンガ造りの給水塔がお目見えした。１９７０年代まで蒸気機関車の水を補給する役割があり、歴史的価値を伝えようと、地元の団体が冬の時期にライトアップしている。

ＪＲ厳木駅の給水塔ライトアップ

まちづくり団体「きゅうらぎデザイン」が実施している。日没から終電の時間帯に点灯し、４月上旬まで。４月には桜もライトアップされる。



ライトアップされた給水塔＝唐津市のＪＲ厳木駅 編注

築９０年以上の木造駅舎は風情があり、駅を出るとのどかな田園風景が広がる。春には桜が咲き誇るなど四季折々の景色も楽しめる。

駅から徒歩５分ほどで「王天家窯」に着き、２代目の福田和祐さん（４４）が出迎えてくれた。唐津焼の朝鮮唐津や鯨シリーズなどを手がけ、「唐津の土を使い、素材感を大切にしている」という。茶わんやぐいのみのほか、丸プレートや酒杯も。オリーブ色や粉引など落ち着いた色味で使いやすく、食卓が豊かになりそうだ。

一息つこうと、「きゅうらぎ温泉佐用姫の湯」へ。「透明でとろっとした泉質が特徴。肌がつるつるになりますよ」と運営する創裕の脇山ゆかり店長（３７）。季節ごとの花の香りが楽しめる香り湯や、じわっと汗が出る岩盤浴も人気がある。昼夜に営業する食事処は、夜の飲食店が少ない町内で宴会場としても利用され、地域の憩いの場となっている。

グルメは相知町の老舗すし店「あづま寿し」へ。町産のシイタケを焼き、甘めのたれで仕上げたシイタケずし（８８０円）は新メニューで、地元の生産者の依頼を受けて２月から提供する。「香り高い味わいを楽しんで」と３代目店主の飯田洋さん（５０）。春には相知高菜を使ったすしも。握りや巻き、いなりずしや天ぷらが付いたランチ（１２００円）は、唐津産を中心とした新鮮なネタを堪能できる。

王天家窯



唐津焼の幅広い作品が並ぶ王天家窯の福田和祐さん

窯を開いた福田泰山さんと、息子で２代目の和祐さんの作品が並ぶ。午前１０時～午後５時半。電話０９５５（６３）２３０４。

きゅうらぎ温泉 佐用姫の湯



透明でとろっとした泉質が特徴の「きゅうらぎ温泉佐用姫の湯」の大浴場（提供写真）

１９９３年開館、年間約５万人が訪れる。３０周年を迎え、４月に記念イベントを予定する。入浴は大人４１０円、小学生以下と市内在住の７０歳以上は２６０円。岩盤浴は４００円追加となる。午前９時半～午後９時、火曜定休。電話０９５５（６３）４１２６。



見慣れた景色も、座席に腰を下ろして車窓から眺めるといろんな発見があり、新鮮な気分を味わえる。「２０２３年版佐賀県旅ガイド」では、佐賀新聞の各エリアの担当記者が電車やバスを利用してとっておきの観光名所やグルメを紹介します！